

令和3年度 動物愛護相談センター動物由来感染症調査結果

(令和4年1月28日現在)

1 犬と猫の寄生虫調査

- (1) 検体採取期間 令和3年4月から令和4年1月まで
- (2) 対象及び規模 ①犬5頭(延べ検体数5)、猫21頭(延べ検体数30)の糞便
②犬5頭、猫9頭の虫体確認
- (3) 方法 ①直接塗沫法及び飽和食塩水浮遊法による糞便中の虫卵の同定
②解剖検査による心臓内及び消化管内における虫体確認と同定
- (4) 結果
- ① 糞便検査(虫卵)

複数の寄生虫類に感染していた個体はなかった。

対象 (延べ検体数)	陽性頭数 (%)	内訳			
		回虫 (%)	イソスラ属 (%)	条虫(エキコックス含む) (%)	鞭虫、鉤虫等 (%)
犬5頭 (5検体)	0	0	0	0	0
猫21頭 (30検体)	6 (28.6)	4 (19.0)	2 (9.5)	0	0

② 解剖検査による虫体確認

複数の寄生虫類に感染していた個体はなかった。

検体	陽性頭数 (%)	内訳			
		犬系状虫 (%)	回虫 (%)	条虫(エキコックス含む) (%)	鞭虫、鉤虫等 (%)
犬5頭	0 (0)	0	0	0	0
猫9頭	3 (33.3)	0	1 (11.1)	猫条虫1(11.1) 瓜実条虫1(11.1)	0

2 狂犬病ウイルス検査のための安全で簡便な検体採取方法の検討

- (1) 期間 通年(随時)
- (2) 対象 疑似狂犬病検体採取訓練に参加する研修生
- (3) 方法 ウレタン樹脂製脳モデルの訓練での活用
- (4) 結果

令和2及び3年度に城南島出張所においてウレタン樹脂製脳モデル(以下、「脳モデル」という。)を活用した狂犬病検体採取訓練実施した。参加者は、令和2年度は1名、令和3年度は6名であった。

訓練日程が1日のみのため、DVD教材「狂犬病検査に必要な解剖方法(安全で簡便な脳の取

り出し方の一例) Ver 2」による事前学習を行った。訓練当日は、DVD 教材と脳モデルを用いた講習をしたのち、脳モデルを見ながら、検査部位の切り出し、切り出し部位のスタンプ標本作成の実習を行った。訓練終了後、参加者全員に脳モデルの訓練での活用による脳構造の理解促進についてアンケート調査を実施した。

アンケート結果から、脳モデルを利用した訓練は、狂犬病検査に必要な検体採取部位（海馬、橋、延髄、視床、小脳）の解剖学的な位置や構造の理解、検体採取手技の習得において非常に有用であることが分かった。